

## 第3章

### あとがき、結び

ラグビーの三つの will の視点を通して考察をしてきました。この三つの will は全く関係のないもので別個の働きをもっているものではありません。別の物に例えれば光の三原色に当るもので三原色は混合して新しい色を作り七色集って無色透明の光となって我々の地球を照らしています。また三本の綱がよられて一本の太いロープとなって強力な力を発揮しているともたとえられます。夫々が集って相乗効果を発揮してラグビーというすばらしいスポーツを作り上げているのです。

以上の三つの視点の外にルールは時間の浪費を防ぐことを目指しています。相手をじらすようなだらだらした行為はスポーツマンとして恥かしいことであると共にルールは許していません。例えばラックで一方のボール獲得が確実と判断したら5秒以内にプレーが展開されるよう間をおいてレフリーは「use it」使いなさいと声をかけます。スクラムを組む前やラインアウトを始める前に言えることです。このように時間の浪費を無くすることはルールの will で equal condition と open play 継続に合致するものです。同じようなことがルールを悪用することは禁止です。タッチへボールを故意に出すことは時間の浪費だけでなく不利な状態を元に戻すものであるのです。トライをされそうな状況でのスクラムでのオフサイドやスクラムを崩す等の違反はトライを防ぐ結果になることがあります。そのようなことは許されません。この場合も equal condition と open play の will に合致するものです。

旧 Laws 第7条 Playing a match (競技方法) に Kick で始まり、～してもよい may で続き、must で全身を使って自由奔放にプレーしなさいと結んでいました。試合に「勝つため」にボールを獲得し前進することに努めます。相手はボールを奪い返すために捕まえ(tackle)ようとします。観衆も赤信号一步手前の黄信号を普通のこととして応援します。「勝つため」に敢えて限度を越さないまでも境界ぎりぎりのプレーを考えます。そのような状況でルールはルールの will が達成されることを求めているのです。そのことを自覚することはプレーヤーにとって指導者にとってもラグビーを楽しむために絶対必要なことなのです。

再びスクラムのことに戻しましょう。

スクラムが激しいプレーの花形として語られ勝敗を決するものとまで重要視されています。ルールを冷静にふりかえってみましょう。ルールはFWの8人が如何に公平且つ安全にボールを獲り合うか細かく決められています。スクラムの形成はともかくとしてエンゲージメントについても実に詳細に工夫されています。「クラウチ」、「バインド」、「セット」の三段階というよりも三拍子は時間浪費を無くし実に有効に作用しています。スクラムはボールがスクラムハーフの手から離れた時に始まり、それまでは押しははいけないのですが有利な体勢をつくるための激しい組み合い部分が展開し少しでも前に出ようとする活動が展開されます。観客もメディアもそれに関心を持ちその段階での勝利を過度に期待します。

ラグビーのルールはグラウンド規定から始まる前に「定義」<sup>(\*)</sup>が設けられています。定義は必要言語の内容の取り決めです。アルファベット順に併記されています。Aの攻撃側(Attacking Team)プレーが行なわれている地点が自陣にあるチームの相手側となっています。ボールを所有して攻撃している側ではありません。何故と思われ人もいるでしょう。いろいろなことを想定してみてください。Bのバインディング(Binding)とHの(Hand-off)を並べて考えてみるのも面白いでしょう。

\*1 <https://laws.worldrugby.org/?domain=2>

「The name of Rugby is enjoyment」<sup>(\*)</sup> 英国のラグビー誌に揚げられたことばです。ラグビーは楽しいです。楽しみ方の方向と道筋を誤らないことが大切です。試合に勝つことは楽しい。勝ちたいという一心で少して

も有利にしようと考えます。それは必要であり当然です。くり返しになりますがそのルールの三つの意志に反するようなことがあっては本当に喜べないということです。keyword を忘れずに誇りをもってラグビーを楽しむことを心に銘じましょう。

ラグビーの進化向上を目指してルールが毎年のように改訂されます。力いっぱい激しく戦う中でより豊かな人間性の感覚をもって wit, humor, を忘れず moderate (中庸) や reasonable (常識的) な心情で戦うことが楽しみをより大きくしてくれるのです。

2020年、我々人間社会は激動・激変の時代を迎えています。ラグビーもグローバリズム、プロフェッショナルリズムそしてコマーシャルリズムの大波の中で発展の一途を辿っています。それらに流されることなく identity を堅持しつつ進化させていくことが大切です。アマチュアリズムの identity であった「アマチュア宣言」は削除されましたがその精神は心のどこかに失わずにおきたいものです。

\*2 <http://nishikawarugbycolumn.web.fc2.com/column/PDF/20060430.pdf>

最後になりますが、ルールはラグビー愛好家たちの200年に及ぶ努力と熱情から生まれた結晶です。文字面だけでなく改めて彼らの思いを偲んで心から感謝をこめてこの稿の終りとします。

Good Rugby.  
Good Rugby Laws.  
Thank you Rugby.

2020/06/28  
西川 義行